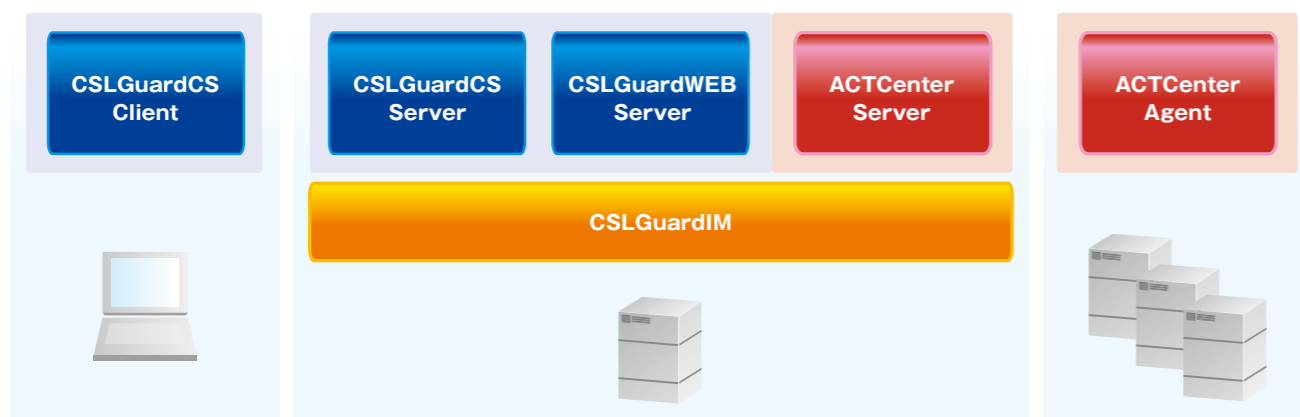




製品名	対応プラットフォーム	
CSLGuard	Server	RedHat Enterprise Linux Windows 2003,2008
	Client	Windows 2000 Professional Windows XP Professional Windows Vista
ACTCenter	Server	RedHat Enterprise Linux Windows 2003,2008
	Agent	Windows Solaris HP-UX AIX RedHat Enterprise Linux HI-UX LDAP Novell eDirectory LDAP SunOneDirectory その他
CSLGuard IM	RedHat Enterprise Linux Windows 2003,2008	

●Oracleが別途必要になります。 ●ACTCenterAgentのその他連携対象システムや対応バージョンについてはお問い合わせください。

CSLGuard、ACTCenterの製品構成



●上記は製品全体の構成であり、実際に必要な製品(コンポーネント)はお客様の要件によって異なります。例)シングルサインオン対象のシステム内訳(Webシステム、クライアントサーバ系システム)など
●Oracleが別途必要になります。 ●ハードウェアについては別途必要となります。



TrustBind®/Federation Manager動作環境	
OS	RedHat Enterprise Linux ES4、ES5 Solaris 9、10
ミドルウェア	JDK1.4、1.5、1.6
WebAPサーバ	Tomcat 4.1、5.5、6.0 BEA WebLogic10 IBM WebSphere6.1
DBサーバ	Oracle 10g、11g MySQL 5.0 PostgreSQL 8.3

●上記に示す環境以外にも順次対応予定です。最新の動作環境はお問い合わせください。



NTTソフトウェア株式会社
営業推進本部 法人営業部
〒108-8202 東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル
TEL.03-5782-7261 FAX.03-5782-7221
E-mail: tssol@cs.ntts.co.jp
製品URL: http://www.ntts.co.jp/products/accsol/
URL: http://www.ntts.co.jp/

CSLGuard、ACTCenter、TrustBindはNTTソフトウェア株式会社の登録商標です。
その他会社名、製品名などの固有名詞は、一般に該当する会社もしくは組織の商標または登録商標です。
Copyright© 2009,NTT Software Corporation
●NTTソフトウェアは環境保護に取り組んでいます。

不正操作などによる情報漏えいの防止、特権IDの管理強化を実現

アイデンティティ管理ソリューション



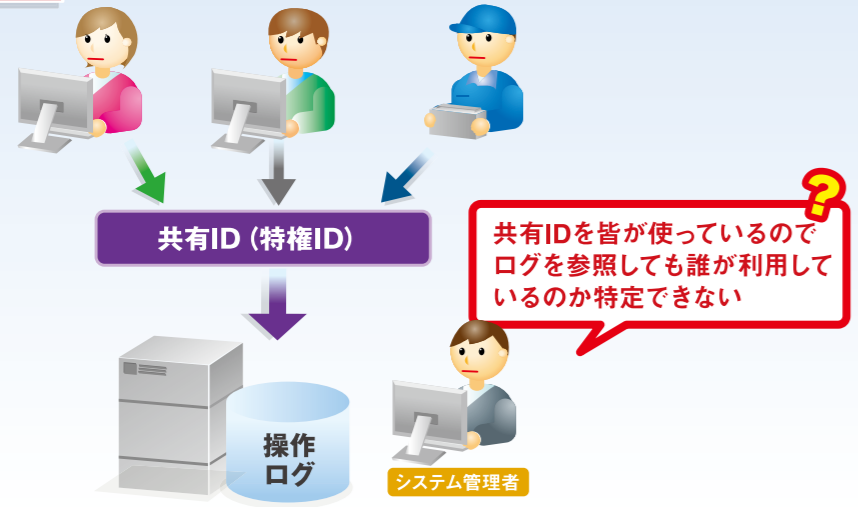
今、特権IDの リスク対策が必要です!

特権IDへのなりすまし、未承認IDの作成、不正利用による情報漏えい...



このような監査の指摘、受けていませんか？

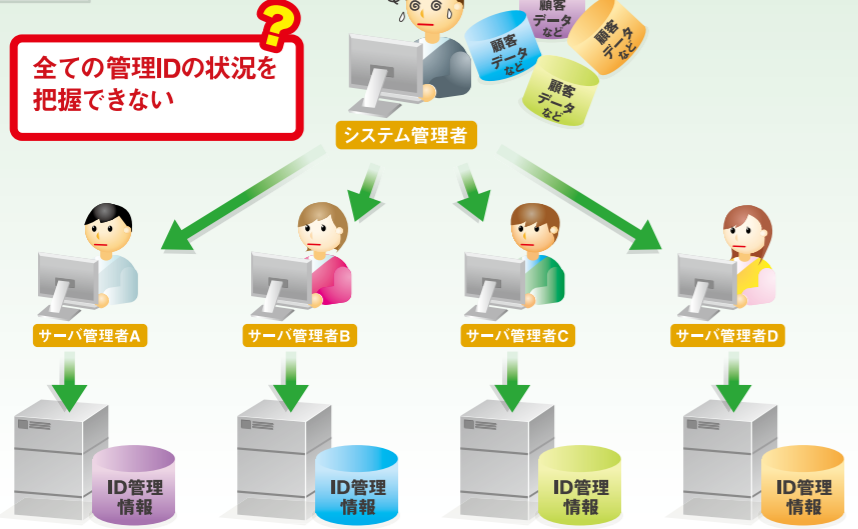
指摘 1



特権IDを共有で利用しており(共有ID)、誰が利用したのか特定できない

共有IDを利用している場合も、いつ・誰が利用したかを明確に記録

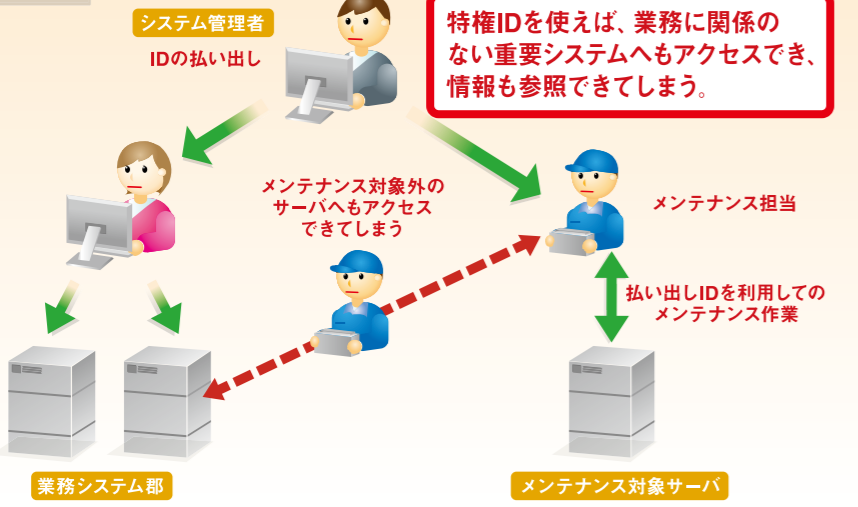
指摘 2



サーバごとに管理者がわかれており、各サーバの管理が行き届いていない

定期的なアカウントの棚卸しや差分チェックにより、各サーバのIDを一括かつ厳密に管理

指摘 3



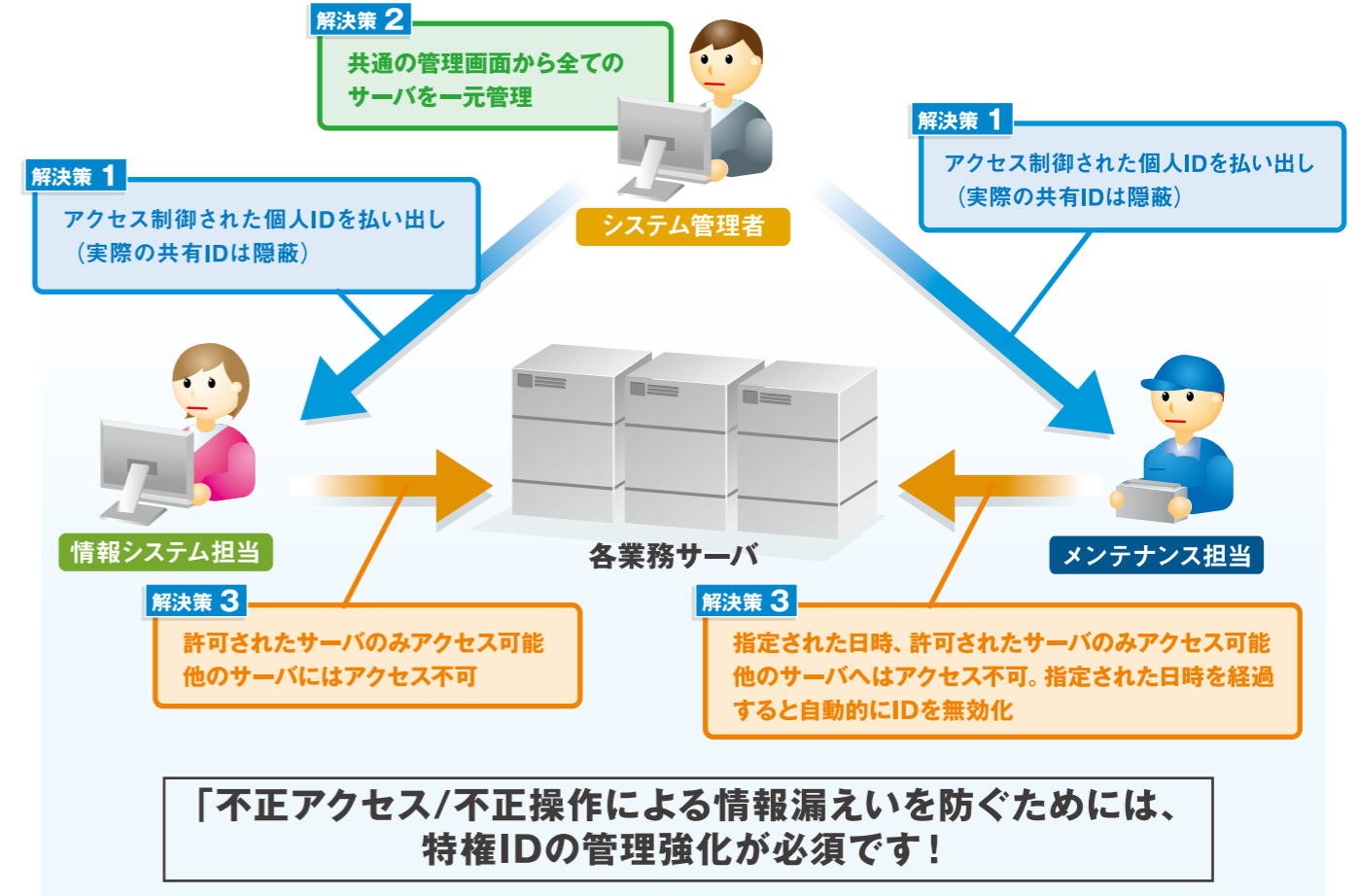
特権IDを利用すると、あらゆるサーバへアクセスできてしまう

ポリシーに従った特権IDによる認証。対象システムの実ID/パスワードを隠蔽し、対象システムへの直接アクセスをガード

NTTソフトウェアは特権ID管理の解決策を提供します！

特権ID・・・ルート権限やアドミニストレータ権限など、特別な権限のID/パスワードを持つユーザID

- 解決策 1 共有ID(特権ID)の利用状況を個人単位で特定
- 解決策 2 統一された運用画面を用いて全てのサーバID情報を一元管理
- 解決策 3 職務権限などに応じた厳密なアクセス管理



NTTソフトウェアの特権ID管理は、長年の経験と多くの導入実績から更なる付加価値をお客様に提供します！

- 内部統制や各種監査、法規・法令に対応した、特権ID管理の仕組みづくり (内部統制/SOX法対策、金融業界におけるFISC対策など)
- 日本企業の運用に適用した製品 (自社開発製品)
- システム運用のコスト削減と特権ID管理の両立を実現
- IDの利用状況を明確化、ログ収集/一元管理
- 統一された運用画面でID情報を一元管理 (使いやすい操作画面)
- 各サーバのパスワードを定期的に変更し、各サーバ上の不要なIDを自動検出

2つのアプリケーションがIT統制に必要なID管理の強化を実現します。

クライアントサーバ系システムなどへのシングルサインオン、アクセス制御を実現

CSLGuard コンソールガード

- クライアント/サーバ系システムへのシングルサインオン
- アクセス制御、監査ログ管理

広域なシングルサインオン(SSO)対象範囲

Web系システムだけでなく、TelnetやSSHといった特権IDを利用する際に利用するクライアントサーバ系システムへのSSOを実現

アカウント情報の一元管理により管理漏れ防止と運用負担軽減を実現

ActCenter アクトセンター

- 特権ID管理
- 監査ログ取得
運用者ログ監査
- 不正アカウントチェック
効率的なスケジュール管理

複数システムのID情報を一元管理

各サーバ (OS、DB、アプリケーション) のID情報を一元的に管理



アクセス制御によるセキュアな環境

役職や部署に対応した細やかなアクセス制御を実現、日時指定によるアクセス許可設定も可能

認証ログを一元取得

対象サーバへの認証 (アクセス) ログを一元取得し内部統制や各種監査への対応作業の低コスト化を実現

スケジュール機能による効率的ID管理

定期的なID払い出しに対しスケジュールリング (事前登録) 機能を利用し効率的な管理を実現
実サーバと一元管理しているID情報の差分 (不正なIDや不要なID) を定期的にレポートし各種監査に対応可能

定期的なパスワード変更を自動化

CSLGuard(コンソールガード)と連携することによりパスワードを意識することなく対象サーバにログオン可能となり、不正ログインを防止

各種状況モニタリング

- 管理者操作 (ID・アクセス権管理履歴)
- 利用者操作 (認証・シングルサインオン履歴)
- パスワードロック

情報検索

- 検索条件により再実行が可能 (クイック検索)
- ポリシーに該当するユーザ検索
例) 現在利用停止中のユーザ検索
- ログ検索

各種メンテナンス作業

- 大量の人事異動を意識した一括処理
(所定形式のCSVファイル)
- 定期スケジュールの登録/実行
(パスワードのランダム変更など)

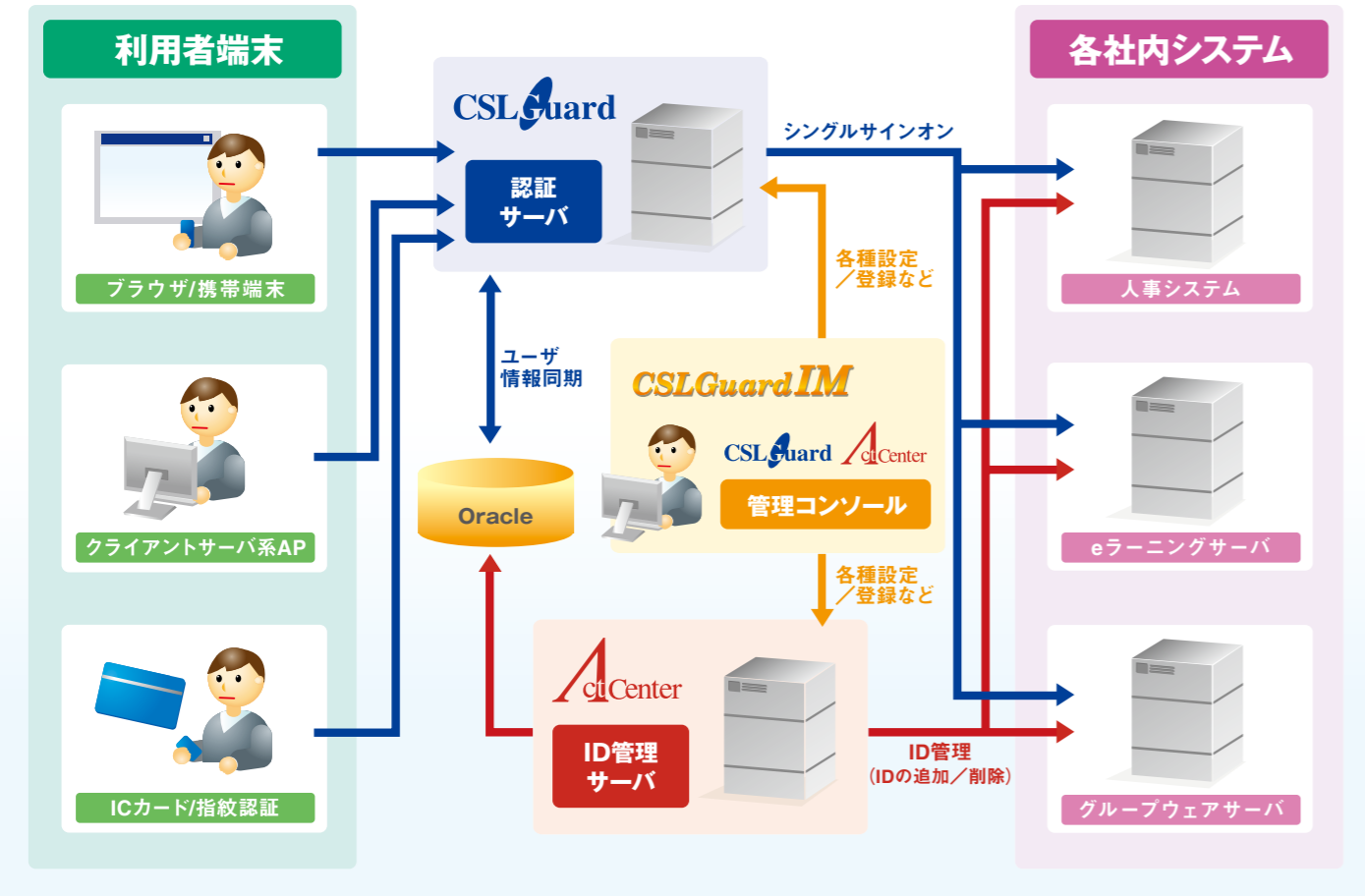
監査チェック

- 管理先の不正アカウントをチェック
- 差分アカウントのレポート出力
(定期レポート)

標準構成での運用イメージ



本ソリューションは、特権ID管理だけでなく、一般利用者のシングルサインオン、ID管理の実現が可能です。そのため、統一管理画面を利用した運用管理者への管理負担を軽減します。



主な導入先業界とお客様の声 (一例)

<p>金融</p>	<p>「特権IDのきめ細かい管理で、内部統制強化、FISC対策が実現できた」 「レガシーシステムへの特権ID管理が実現できた」 「業務系システムのSSO、ID管理で、不要IDの定期的検査の自動化が実現できた」 「数千台規模のサーバのIDに対して自動で短時間で、パスワード変更することができ運用管理コストの削減ができた」</p>
<p>製造</p>	<p>「[共有ID] を利用しながら、特権ID利用者の特定ができた」 「社員のSSO導入により、複数存在していたID/パスワード情報を一つにし、パスワード忘れによる情報管理部門のパスワード再発行処理を大幅に軽減できた」 「日本版SOX法に準拠したID管理システムが導入できた」</p>
<p>官公庁</p>	<p>「職員のID一元管理で業務効率化を、職員のSSO機能提供により利便性を強化した」 「国産で長期間サポートが可能なSSO製品の導入ができた」</p>

上記のほか、流通、通信・サービス、教育など130システム以上の採用実績があります。



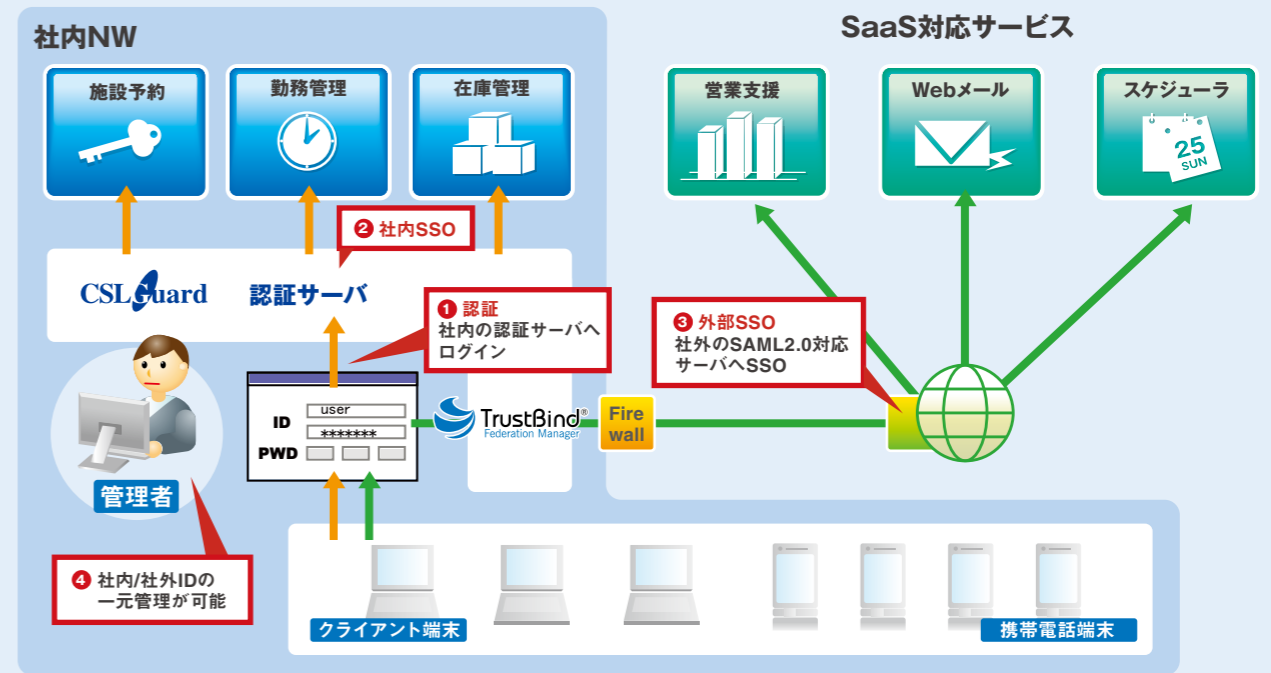
SaaS/クラウド時代のID統制に備えていますか？

J-SOX法対応や情報セキュリティ事故の頻発に伴い、内部統制の一環としての企業内ID統制は広く進められています。一方で、SaaS/クラウド型サービスが普及し、ID情報を含む重要なデータが企業内外に分散する事態も生じています。

シングルサインオンでSaaS/クラウド環境下の業務を効率化

SaaS/クラウド型サービスを利用する際にそれぞれログインが必要となるのでは、サービス毎のIDやパスワードを忘れてしまう等、様々な面で不便な事態が生じます。シングルサインオンを実現することで、利用者の利便性を高めると同時に、運用管理者の業務効率を高めることができます。

TrustBind/Federation Managerは独立したユーザ体系を有するサービスの間でのユーザID連携や、シングルサインオン、ユーザ情報の連携などを実現するツールです。



利用者の利便性の向上

- 社内での一度のログインで社外システムへのログインが可能
- ログイン作業の過多によるストレスの削減により作業効率UP
- 携帯電話端末によるID連携で出先での利用も可能

管理の削減/内部統制対応

- ID/パスワードの二重管理を削減することで管理者の稼働の削減が可能

SaaSへの対応

- SaaS型サービスの導入/連携が容易に可能
- 標準仕様であるSAML2.0や近年爆発的に利用企業を増加させているOpenIDに完全に準拠
- 経験豊富な国内技術者による安心なサポート